

学校教育グループ

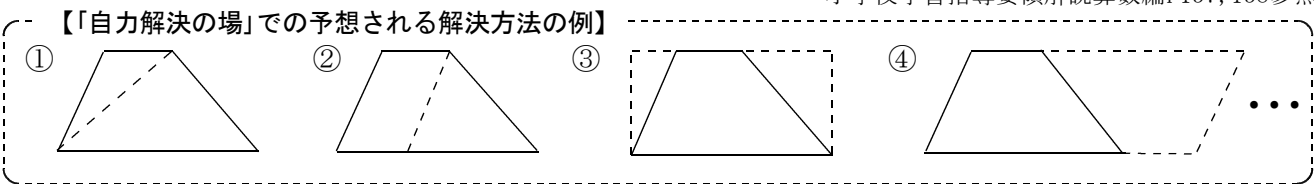
－ 今後の授業改善に向けて②（集団解決の場） －

利根・沼田の教育第9号では、授業づくりにおける「ねらい」の吟味の重要性について述べました。今回は、いわゆる「集団解決の場」で大切にしていきたいことを、小学校5年算数の「平面図形の面積」を例に説明します。

本時のねらいを達成するために、「集団解決の場」でどんな観点から意見の交流をさせたらよいか構想する。（「自力解決の場」での予想される解決方法をもとに）

<本時のねらい> 既習の図形の求積方法に帰着させて、台形の面積の求め方を考えることができる。

小学校学習指導要領解説算数編P137, 138参照



【「集団解決の場」での発問と、予想される子どもの反応】

※各方法について、正しいことを確認し、それぞれのよさを認める。その後、次のような比較・検討を行う。

A先生	B先生	C先生
<p>☆よりよい方法はどれか考えさせたい。(いつもこの方法が有効だと考えている)</p> <p>一番よい方法(簡潔性・一般性・明瞭性など)はどれでしょう？</p> <p>どれも、よいと思うけど…どう答えたらよいのだろう??</p>	<p>☆根拠を丁寧に聞き、既習事項を活用する有効性に気付かせたい。(本時のねらいを意識している)</p> <p>なぜ、そう考えたのですか？共通する解決のポイントは何だったのでしょうか？</p> <p>今までに習った三角形や平行四辺形などの面積の求め方を使えばいいんだ！この方法ならば、ひし形も求められるね！</p>	<p>☆分ける・くっつけるなどの方法を意識させたい。(操作活動だけに目が向いている)</p> <p>考えた方法を仲間分けしましょう。</p> <p>二つの図形に分ける方法と、くっつける方法と、外側に作る方法と…??</p>

教師の発問により、子どもの反応が大きく変わってきます。B先生のように「本時のねらいを達成する」という視点で「集団思考の場」における発問や意見交換のさせ方を十分に検討しておく必要があります。ただし、A先生の発問は、よりよい方法を見出すときに有効であり、C先生の発問は、これで終わりにせず、他の発問と組み合わせると有効です。本時のねらいに応じて、選択したり、組み合わせたりするなどの工夫が大切です。